

○成道会に参加した生徒の感想



3年 T.Iさん

本日はお忙しい中、ご講話をしてくださりありがとうございました。

お釈迦様と現代の我々は同じ月を見てつながっていると学びました。月にうさぎがいると言われているのは中国・韓国・日本だけで、お釈迦様の生まれたインドやアメリカはワニ、中南米はロバ、ヨーロッパはカニの爪など、住んでいる環境によって左右されるとのことですが、人の価値観も環境によって変わることも同じだと思いました。差別だとか各国の雰囲気、ルール・法律も全て今までの歴史の中で培われてきたものなので、多様性を尊重することがいかに難しいのかと感じました。ジャータカ（お釈迦様の前世の話）は狐と猿とうさぎが仲良く過ごして、帝釈天が天から見ていて老人に扮して3匹を試そうと目の前に現れ、無力なうさぎは火をたいて自分を食べてくださいと言った話だと知り、驚きました。また、自然におけるカモシカとライオンの関係は、ただの食物連鎖だと考えていました。しかし、餌となったカモシカは、ライオンの家族の命と、逃げおおせた群れの仲間を救ったことになるという風に考えられることを学びました。ただの自然の摂理ですが、残酷さと恵みを持ち合わせていることを知っていなければならないと思いました。人間は欲深いことが快適な暮らしをもたらしていますが、快適に暮らせているのも、様々な犠牲の上に成り立っていることを忘れないようにしておきたいです。捨身の心は誰もが簡単に持つことができるものではないと思います。しかし、命をもらって命を繋いでいること、周りに助け合っていること等、直接命が関わってなくても、感謝と謙虚な気持ちを忘れずに過ごしたいと思いました。

3年 T.Yさん

自分の命を差し出してでも他人の命を救おう。

捨身＝自分の身を捨てること

いろいろなものの犠牲があるから今自分が生きている

私は生きている限り、自分の命を差し出して他人を救うことはできないと思います。他人のためになることが好きで看護師を志望していますが、自分の命までを差し出すことはできません。しかし自分の命を差し出し多くの人のためになった女性の話を幼稚園児の頃に聞いたことがあります。

私の住む街には「お三伝説」というお話があります。お三という女性が人柱となり埋め立て工事の成功を祈願したというものです。当時通っていた幼稚園で聞いたお話で、お三ノ宮通りと呼ばれている通りにもその伝説について書かれた掲示物もあり地元の多くの人知っています。今では街の人のために自分が犠牲になる機会はありません。しかしそんな機会があったとしても、簡単にはできない行動だと思います。私が12年以上前に通っていた幼稚園の園長から聞いた話ですが、今でも覚えているお話です。幼稚園児ながらにお三がとてもすごい人であると感動したのを覚えています。

私は他人のために命を差し出すことはできません。私の命は家族を含む多くの人の支えやその人の持つ技術のおかげで繋がれた命です。しかし、人のためになれることはできる範囲で行っていきたいと思います。